

1. 授業や校務のICT化を積極的に進める。

○採点業務省力化ソフトの導入【石川県】

- ・「百問繚乱（株）Simple Education」を導入。（令和4年度から）
 - 県立全日制高等学校（38校）および県立金沢錦丘中学校で使用。
 - 定期考査の採点以外に、その他テストの採点や各種アンケートの集計にも活用事例。

○保護者と学校間の双方向型連絡専用スマートフォンアプリの導入【加賀市、能美市、白山市、内灘町】

- ・保護者からの欠席連絡に活用（C4t hとの連携）
 - 朝の電話件数軽減および朝の電話対応の負担軽減につながっている。
 - 令和4年度、令和5年度から「CoDMON(コドモン)」を市内小中学校に導入。
 - 令和5年から「TeToru (テトル)」を市内小中学校に導入。

- ・学校からの印刷物をPDF化して配信
 - 印刷物の削減および印刷業務の軽減を図っている。

○共有サーバー（共有フォルダ）の活用【金沢市、中能登町】

- ・市教委と管理職のみが閲覧可能なフォルダの活用
 - フォルダを互いに閲覧しながら、作業内容について電話をしながら指示することができ、管理職からも好評を得ている。
- ・各学校で作成した資料（学校研究、生徒指導、教材研究等）を共有
 - 令和5年6月から共有フォルダを導入。各学校で作成したデータを互いに閲覧できる。
 - 各学校で活用できることから、作業の効率化（時間短縮）につながるととらえている。

○A Iドリルの活用【羽咋市】

- ・令和5年5月から「すらら」を市内全ての小中学校で使用可能にした
 - 採点業務が軽減された。

2. コロナ禍での対応を今後の多忙化改善に生かす。

- ・日課を変更し、下校時間を30分早める【宝達志水町】
 - 職員の時間外勤務の縮減につなげている。
 - 令和5年2学期から日課を変更（町内中学校1校）。朝読書をなくしたことに加え休み時間を短くする等した。その分、部活動の終了時刻も早めることができた。

3. 若手教員早期育成プログラムによるサポート体制の一層の充実

- ・県や文部科学省で作成された資料・動画を活用した研修【津幡町】
 - 各学校での資料作成を削減している。
 - 令和5年度4月、校長研修会を通して、各学校に対し、スマートスクールネットの利用など既存の資料を活用しながら若手育成を進めるよう紹介・指導した。

4. 教員数・生徒数を踏まえた部活動の精選及び部活動指導員の積極的な活用に加え、部活動の地域移行に向けた実践研究

- ・部活動の地域移行に関するニーズ調査の実施【白山市、金沢市、津幡町、志賀町】
 - 小学校6年生、中学校1、2年生、その保護者、中学校部活動顧問を対象にして部活動地域移行に関するアンケートを実施し、意見や要望、考え方を集約した。

5. 学校現場の業務縮減に向けた教育委員会の取組を更に進める。

- ・スクール・サポート・スタッフの配置【石川県、全市町】
 - 平成30年度から開始。HPの更新や電話対応等、状況に応じて幅広い業務を依頼している。
- ・ICTの活用の促進のための研修を実施【野々市市】
 - 令和5年度夏、「学びポケット」使用方法に関する研修を実施。教頭から市教委への回答業務の補助をスクール・サポート・スタッフが担えるようにした。
- ・学力調査の自動採点システム導入と外部人材への委託【加賀市】
 - 退職教員などへ声をかけて人材を確保した。各学校でPDF化されたデータを採点し自動採点システムに反映。
- ・CIO(Chief Information Officer、情報統括役員)を委託【加賀市】
 - クラウド等における校務の情報化・効率化など働き方改革を推進するための具体策を検討し、取組を進めている。特に、C4t hの効果的運用や学校のフォルダ整理に関するレクチャーに尽力している。